

令和6年・7年度 菊池市教育委員会
「学力向上（ICT教育推進含む）」研究推進校

菊池市立泗水小学校研究発表会

研究主題

児童全員が「分かった」「できた」を実感する学習の工夫

～一人ひとりの「分からない」「なぜ」「どうして」を大切にしたい関わりを通して～



研究の概要



研究の目的

本研究では、すべての児童が確かな学力を身に付け、児童同士が意見の交流を活発に行える授業づくりを行うことで、児童の主体的な学びを実現することを目的としている。



研究の仮説



仮説1

各教科において「学び合い」を取り入れた学習の工夫を行うことで、全員が「分かった」「できた」を実感することができるだろう。

- （視点①）「学び合い」を促す工夫
- （視点②）「分からない」「なぜ」「どうして」を言語化させる工夫
- （視点③）児童に当事者意識をもたせる工夫



仮説2

児童対児童、児童対教師の信頼関係を深めることで、一人ひとりが素直に「分からない」と言える学級になるだろう。

- （視点①）児童対児童の取組
- （視点②）児童対教師の取組



「学び合い」について



本研究で定義する「学び合い」とは、教師が一方向的に教えるのではなく、学びをファシリテートすることで、児童が個人で学習したり、児童同士が協働的な学びに取り組んだりすることを通して、全ての児童が「分かった」「できた」を実感することを目指した学習形態である。具体的な学習の様子は2ページに記載している。



研究の内容と実際

仮説 1・・・各教科において「学び合い」を取り入れた学習の工夫を行うことで、全員が「分かった」「できた」を実感することができるだろう。

児童が主体的に学ぶために、「学び合い」を取り入れた。

まず、めあて・課題を確認し、次に課題解決へ向けて活動する。課題解決は、個人で行ったり、席を離れて友達で行ったり、児童が学び方を選択できるようにする。その後、必要であれば全体学びを行う。

最後にまとめ・振り返りを行い、全員が「分かった」「できた」を実感できるようにした。

学習活動

導入

- 1 前時の振り返りをする。
- 2 問題を読み、本時の課題をつかみ、めあてを設定する。

◇導入のポイント

- ・前時の振り返り等を行い、学習の見通しをもたせる
- ・全員が課題を把握したか確認する



何算になるか考えましょう

- ・わり算じゃない？だって「同じ数ずつ分けると」って書いてあるよ
- ・えっ、なんでそれでわり算になるの？

展開

- 3 課題の解決に向けて活動する。
(1) 自分で考えたり、友達と学び合ったりする。

◇展開のポイント①

- ・児童が主体的に課題を解決
- ・一人で考えてもよし、グループで相談してもよし
- ・教師は「学び合い」をコーディネートする

何算になるか分かりません。



問題文に「同じ数ずつ分けると」って書いてあるよね？…

- (2) 全体で共有し、まとめをする。

◇展開のポイント②

- ・困っている点を確認し、児童同士でその解決を図る
- ・全員が分かるまでやる
- ・教師は話し合いをコーディネートする
- ・教師は児童の考えを板書する



「同じ数ずつ分けると」ってどういうこと？

「同じ数ずつ分けると」ってことはね、30個のあめを5人に同じ数ずつ分けるってことだから、この図を使って説明するね

終末

- 4 まとめをする。
- 5 適用問題を解く。

◇終末のポイント

- ・教師は、適応問題やまとめの文章を見取る時間を設定し、理解度を把握する

仮説 2・・・児童対児童、児童対教師の信頼関係を深めることで、一人ひとりが素直に「分からない」と言える学級になるだろう。

児童同士や児童と教師がつながることで、児童が授業の中で素直に「分からない」が言える学級になると考える。

児童同士のつながりを育む活動として、『遊ぶ』機会を設定した。「縦割り班遊び」や「あそビンゴ」を行った。また、児童と教師のつながりを育む活動として、「サンキューカード」に取り組んだ。

これらの活動を通して互いの信頼関係を築くことで「誰一人取り残さない学び」の実現を目指していく。



◇縦割り班遊びのポイント

異学年での遊びを通して、普段関わりの少ない児童のことを知り、誰とでも話せる素地を育むとともに、高学年を中心に、「低学年も一緒に楽しめる遊びってなんだろう」と他者のことを考える意識を育むことにもつなげている。

◇あそビンゴのポイント

「クラスみんなが楽しめる遊び」を考える活動を通して、児童が、クラスの一人ひとりを大切にする意識を育む。また、遊びの中での言動を見取することで、授業以外で見せる児童の姿を知り、日常の指導につなげる。



◇サンキューカードのポイント①

校内で望ましい行動をしている児童を担任以外の教師が見取り、当該児童の担任教師にカードを渡す。そして、学級で児童に配付する。また、そのカードを廊下に掲示することで、たくさん褒められる場を作っている。



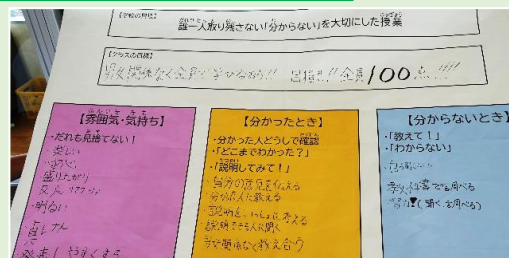
◇サンキューカードのポイント②

教師に価値付けされたことで、行動に対する意欲が強化され、さらに望ましい行動を行うことが考えられる。

仮説1・・・視点①「学び合い」を促す工夫

「学び合い」の授業において、どのような児童の姿を目指すのかを各学級で、どのような教師の姿を目指すかを職員内で共有することで、誰一人取り残さない授業の実現を図った。

年度当初に、学級での目標を話し合うことで、「分からない」ことを表現できる学級とは何か、児童と教師が互いにイメージを共有した。(右写真)



◇「学び合い」のある授業における想定される児童の姿・目指す教師の姿

- 児童像①「自分から『分からない』が言えて、課題を解決するために行動している児童」
 - ②「何が『分からない』のか自分から伝えている児童」
 - ③「友達の『分からない』を受けて、自分の考えを説明している児童」
- 教師像①「児童が自分から『学び合い』に向かえるよう、見取り、促す教師」
 - ②「誰が、何が『分からない』のか把握し、その『分からない』を中心に学びを構成する教師」

構想案においても「分からない」児童の想定を明記した。構想案3ページに記載している番号と、本時の展開に示されている番号をリンクさせている。



授業実践【「導入」で、学習課題の設定を工夫し、教師の役割を工夫することで「学び合い」を実現する例】

- (1) 学年・単元名 6年 国語「風切るつばさ」
- (2) 本時の目標 登場人物の言動や気持ちに関わる叙述から、人物同士の関係を捉えることができる。(7/8)
- (3) 本時の実際

過程	学習活動（◇目指す児童像とのつながり①・②・③）	
導入	1 課題をつかむ。 ◇学習課題 飛べなくなっていたクルルはどうして急に飛べるようになったのか	 ・読む場所は分かったけどクルルの気持ちが分からないな・・・【児童像①】 ・「カララは何も言わなかった」→言葉ではなく行動で示したことが、クルルの心を動かしたんじゃないかな・・・【児童像③】
展開	2 課題の解決に向けて活動する。 ・自分の考えをもち、学び合う。	 はい、Sです!! やったー!! ...【児童像③】
開	◇『学び合い』を促す課題設定の工夫② A評価の児童がB評価の児童に答えを教えるだけにならないよう、B評価の児童の質問に対し、A評価の児童は「はい」「いいえ」でしか答えられないルールを設けた。この仕組みにより、対話生まれ互いに考えを引き出し合う姿が見られるようになるとともに児童の学びが深まり、協働的に学ぶ姿勢が育っている。	 この文章が関係していると思うけど、どう? ...【児童像②】 私は、その文章使ったよ。 ...【児童像③】

仮説 1・・・視点②「分からない」「なぜ」「どうして」を言語化させる工夫

- ネームプレート等を用いた理解度の可視化
- 児童の「分からない」を中心に据えた全体での学び

授業実践 【「展開」で、理解度を可視化することで、全員が「分かった」「できた」を実感する授業の例】

- (1) 学年・単元名 3年 算数「わり算」
- (2) 本時の目標 順序良く考えて、除法と加法や減法を組み合わせる式を考えることができる。(2/11)
- (3) 本時の実際

過程	学習活動（◇目指す児童像とのつながり①・②・③）
導入	1 課題をつかむ。 ◇学習課題 30このいちごを、1皿に5こずつのせました。お皿は、まだ4まいのこっています。 お皿は、全部で何まいありますか。
展開	2 課題の解決に向けて活動する。 ・自分の考えをもち、学び合う。 ◇ネームプレートを用いた工夫 課題に対して答えをもつことができた児童が、自分のネームプレートを黒板に貼ることで、教師も、他の児童も、誰が分かっていて、誰が困っているのかが一目で分かる。自分が出来たら終わりではなく（視点①に関連）、全員が「分かった」「できた」を実感できることを目指しているため、積極的に教えに行く児童、教えてもらいに動く児童の姿が見られた。  ◇「分からない」を中心にした全体学びの工夫 「学び合い」を通して、全員が「分かった」「できた」を実感できるよう、全体学びを工夫した。答えを出することができた児童が自分の意見を発表するのではなく、まだ、自分の意見をもてていない児童が、『どこに困っているのか』を明らかにし、その児童に対して説明した。もし、説明を受けた児童が納得いかなければ、どこが納得いかないのかを明らかにし、説明をつないでいくようにした。児童同士で意見を練り上げていくことは難しい面があるため、教師が話し合いをコーディネートする場面も見られた。 わり算なのは分かったし、出来たけど、なんでそのあとたし算なの？ ・・・【児童像①】  ああ、そういうことか。 ・・・【児童像②】 ああ、それはね、問題文に「まだ4まいのこってます」と書いてありますよね？だから、この4まいは足さないといけないですよ ・・・【児童像③】 まだ困っている人はいますか？困っている人はどこに困っていますか？

仮説 1 . . . 視点③児童に当事者意識をもたせる工夫

- 「学び合い」で説明するときの話型を示したり、声をかける視点を示したりした。
- 全体学びに際しては、自分と似ているところや、違うところなど、自分の意見と比べながら聞くように声をかけたり、比べた結果を挙手で示すような指示を行ったりした。
- 振り返りの視点に、学級で話し合った「学び合い」の目標（視点①に関連）が達成できたかを取り入れた。



授業実践【「導入」で、「学び合い」に関する視点を与え、「終末」で、自分の意見と比べる発問をしたり、学びを振り返らせたりすることで児童に当事者意識をもって学習に取り組ませた例】

- (1) 学年・単元名 1年 生活科「花をさかせよう」
- (2) 本時の目標 開花の喜びや花の様子を話したり書いたりするとともに、自分が世話をしたことで自分のあさがおが元気に育ち、花が咲いたことに気付くことができる。(8/9)
- (3) 本時の実際

過程	学習活動（◇目指す児童像とのつながり①・②・③）	
導入	1 課題をつかむ。 ◇学習課題 つぼみのあとの あさがおの花は どうなっているんだろう。 ◇声かけの視点を与える工夫 「学び合い」において、自分の意見をもつことができた児童が、仲間にどのような声をかけるか教師が視点を与えた。	
展開	2 課題の解決に向けて活動する。 ・自分の考えをもち、学び合う。 どんな色なのか書いたらいいんじゃない？この花何色かな？ . . . 【児童像③】 どんなこと書いたらいいのかな . . . 【児童像①】	色のことはもう書いているけど、他にどんなことを書けばいいかな？ . . . 【児童像②】 すごいね。ぼくは匂いのことも書いたよ。この花どんな匂いがする？ . . . 【児童像③】
終末	3 学習課題のまとめをし、振り返りをする。 友達に教えられたし、みんな書けたから4点だな . . . 【児童像③】 教えてもらって書けたから3点かな。でも、教えてもらえてよかったな . . . 【児童像②】	◇ふり返りの視点を与える工夫 「学び合い」を通して、学級の目標が達成できたか、自分の学びや学級全体の学びはどうだったか等の視点を与える。高学年では、前時との比較や新たな問いといった、より学びをメタ認知した振り返りを促している。

仮説2・・・児童対児童、児童対教師の信頼関係を築く取組

『学び合い』による授業の中で、「分からない」と気兼ねなく児童が言えるためには、児童同士や児童と教師の信頼関係を構築することが必要だと考えられる。

そこで、次のような取組を行った。

取組の実際

児童対児童の取組

◇あそビンゴの取組
スポーツ委員会と連携して、朝活動、昼休み等を活用して取り組んだ。

遊びの中での児童同士の関係に目を向けたり、遊びを考える際に相手意識を育んだりできるようにする。

あそビンゴ (年 組)

おこなわをつかったあそび	ボールをつかったあそび	おにごっこ
けいどう	いず取りゲーム または フルーツバスケット	がっきゅうで かんがえた あそび
がっきゅうで かんがえた あそび	おにごっこ	ボールをつかったあそび

<やくそく>

- ・遊びの内容をみんなで考える。
- ・みんなで仲良く、楽しく遊ぶ。
- ・楽しく遊べたら、シールをはる。



◇「名探偵ゲーム」
長期休みにしたことを、友達の様子を想像しながら質問することで、相手意識をもつことや、上手く答えを引き出す質問の仕方を考える時間になった。

◇「すごろくトーク」
すごろくのマスによって話す内容が変化するため、様々な話題での相互理解を深めるとともに、話の中心を意識した話し方・聞き方を養う時間になった。



◇がまだせタイムの取組

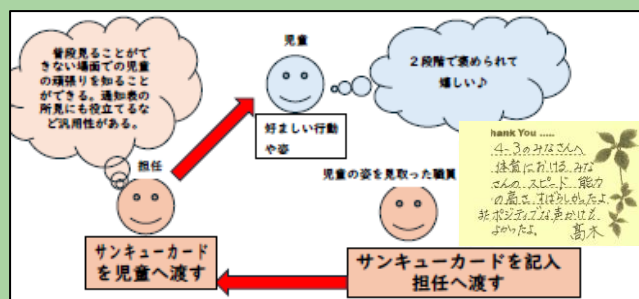
朝活動の時間を使い、児童同士が協働的に学ぶ力を高める活動を行った。学習環境部の教師を中心に、児童同士をつなぐ集団作りや質問の仕方について考え、コミュニケーション能力を高めるために内容を検討し冊子にまとめた。このことによって、教師が各学級の実態に応じた内容を選び、協働的に学ぶ力を高めることにつながっている。※上記の「名探偵ゲーム」「すごろくトーク」は、がまだせタイムの一例である。

児童対教師の取組

◇サンキューカードの取組

道徳教育担当と連携し、児童の日常生活における好ましい行動を見取り、複数回褒められる環境を作り、自己肯定感を高めている。

好ましい行動の判断基準が、各々でぶれないよう、「洒水つ子すてき行動チャート」を作成し共有した。



洒水つ子すてきな行動チャート (高学年)

	なかよく	つよく	しんげんに
朝の時間	・友達や先生、地域の人にきもちのよいあいさつをする。	・車自帽子をかぶって登校する。 ・8時5分の音楽の会場で自分の席にもどる。 ・登校後すぐに名刺をつける。	・クラスで決まった時間までに宿題を提出する。
授業中	・困っている友達には優しく声をかけてあげよう。 ・授業中にひとりを作らず、いつでもだれとでも活動する。	・自分のことや難しい問題でもあきらめずにおぼろげにやり続ける。	・自分から分かったりしている。「分からない」を自分なりの形で伝える。
休み時間	・相手の気持ちを考えよう。 ・トイレのスリッパをならべる。	・下級生のお手本になる室内の過ごし方を考える。 ・クラスでチーム前奏の声をかけよう。	・次の授業の準備をする。
給食時間	・言葉で協力して給食準備をする。	・自分できめた量を食べる。	・給食当番のそれぞれの仕事に責任をもって取り組む。
そうじ	・縦割り班で協力してそうじをする。 ※下級生に指示を出したり、助けたりしてそうじをする。		・無言で時間いっぱいそうじをする。
帰りの会	・話している人の方を見て、静かに聞く。	・帰りの会が始まるまでに自分の準備をすまやかに終わらせる。 ・下校放送の音楽が鳴り終わるまでに学校を出る。	
下校	・友達や先生、地域の人にきもちのよいあいさつをする。	・寄り道しないて帰る。 ・下校放送の音楽が鳴り終わるまでに学校を出る。	・次の日の予定や準備をしっかりメモする。
その他	※委員会活動やクラブで友達と協力して活動する。	・車自帽子をかぶって下校する。 ※委員会や決められた活動に責任をもって取り組む。	



本校ホームページに資料を掲載しております。

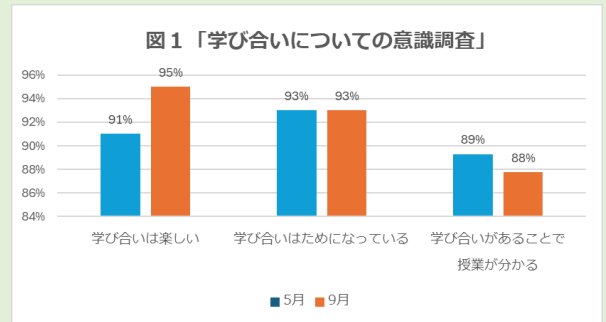


研究のまとめ



仮説1【各教科において「学び合い」を取り入れた学習の工夫を行うことで、全員が「分かった」「できた」を実感することができるだろう。】について

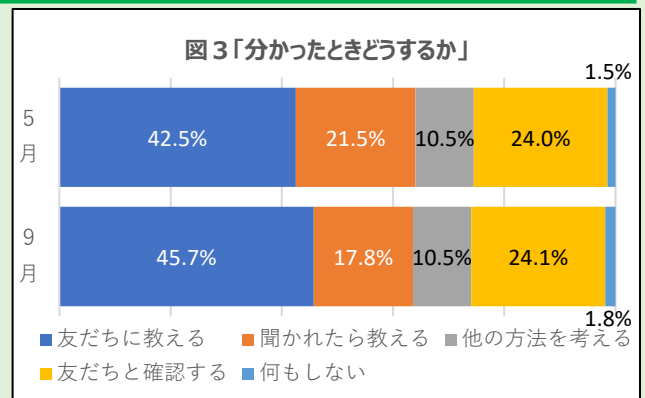
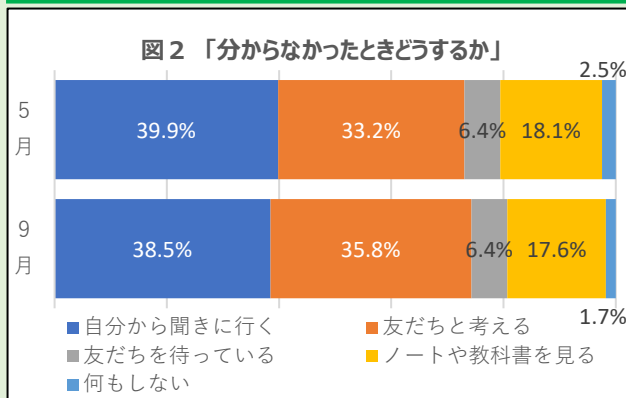
○図1から、学び合いに対して肯定的な意識をもつ児童の割合が高いことが分かる。学年別にみると、特に低学年では5月から9月にかけて肯定的な回答をした割合が10ポイント上昇したクラスもあった。また、高学年においては、5月から9月において大きな変化は見られなかったものの、ほとんどのクラスが90%以上の高い割合を維持している。高学年は昨年度から「学び合い」の形を授業の中に取り入れており、学習の形として根付いていることが分かる。



●学び合いを通して「分かった」「できた」を実感できている児童の割合は5月と比べて下がっている。しかし、これは『学び合い』について各学級で理解が深まり、新たに課題が見えてきた結果ではないかと考えられる。今後、各学級で見えてきた課題を解決できるようさらに高めていきたい。



仮説2【児童対児童、児童対教師の信頼を深めることで、一人ひとりが素直に「分からない」といえる学級になるだろう。】について



○図2より、問題が分からないときに友達と関わり合いながら学習を進めようとする児童が70%以上であり、素直に「分からない」と言え、友達と学び合おうとする意識があることが調査でも明らかになった。また、「ノートや教科書を見る」と答えた児童も20%ほどおり、分からないときも、どうにかして自ら学びを進めようとする意欲がうかがえる。

●図3より、問題が分かったときに「友達に聞かれたら教える」と答える児童が一定数いるなど、受動的に学習していることが分かる。分からないときだけではなく、分かったときにもどのような姿勢で学習に臨むかが、一人ひとりが「分からない」と素直に言える学級づくりにつながっていくと考える。そのため、児童のソーシャルスキルの向上が必要であると捉え、朝の帯活動「がまだせタイム」の時間を活用してクラスでアイスブレイクの取り組みを今後も引き続き行っていく必要があると考える。



今後に向けて

「分からないときにどこまで分かったかを伝えているか」という質問に対して児童の肯定的な回答の割合が10ポイント増加した。この点を重点的に伸ばしていくことで、児童の「分からない」がより明らかになっていくだろう。そして、さらに児童の「分からない」を大切に授業づくりにつなげていくことが重要だと考える。

